

経済マンスリー [原油]

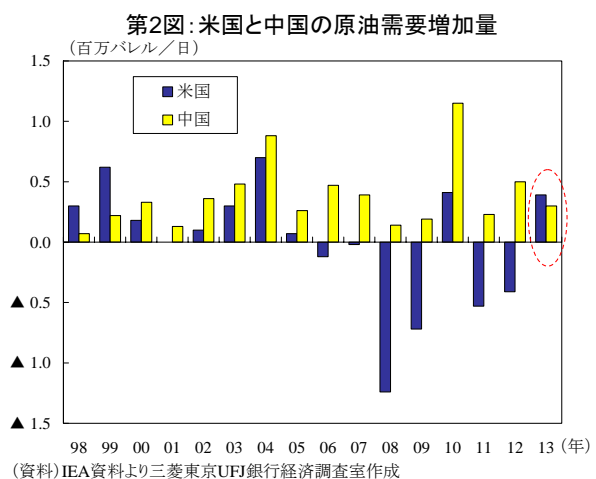
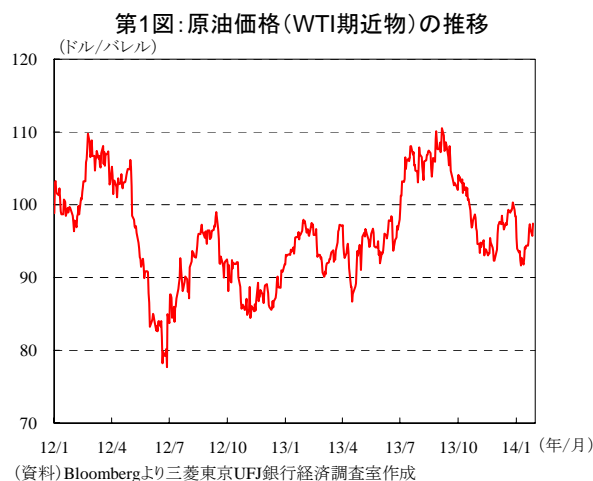
米国の需要増加量が中国を上回った 2013 年

原油価格（WTI 期近物）は 12 月中旬以降、米国の量的緩和縮小決定や地政学リスクの高まりを背景に 99 ドル近辺で推移した。しかし 1 月に入ると、米国の原油在庫増加や米中の景況指数悪化を受けて原油価格は下落傾向を辿り、13 日にはイラン核協議進展を背景に 91 ドル台に下落した。その後、①堅調な米経済指標、②国際エネルギー機関（IEA）による世界需要見通し上方修正、③米国でのパイプライン稼働による原油在庫減少期待、等が買い材料となって原油価格は上昇傾向を辿り、足元では 97 ドル台で推移している。

IEA によれば、2013 年の米国の原油需要（日量、以下同様）は 1,893 万バレルとなり、前年からの増加量は 39 万バレルと中国（1,012 万バレル）の 30 万バレルを上回った（第 2 図）。米国は 10～12 月期に石油化学業向けを中心とする産業用需要が大きく増加したことから通年では IEA の予想より上振れ、中国については下振れた、としている。

2000 年代に入り、米国の原油需要は景気要因と高いエネルギー効率等により低迷してきた一方、中国の原油需要は高成長を背景に急増したことから、中国の需要増加量が米国を上回る姿が続いてきた。そうした姿が逆転したのは特徴的な出来事といえる。米国は通年のガソリン需要も 2004 年以来の伸び率となり、原油需要は全般的に好調だった。背景には米国景気が緩やかな回復傾向を辿っていることがあろう。

一方、中国の 2013 年の実質 GDP 成長率は 7.7% と 3 年連続で一桁台の成長にとどまり、原油需要が力強さに欠ける一因になったとみられる。足元では米量的緩和縮小を背景に、中国だけでなく新興国全体について先行き不安が強まっているが、新興国景気は原油需要に大きな影響を与えるため、その動向を注視する必要がある。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。